

平成 27 年度厚生労働科学研究費 「医師国家試験の在り方に関する研究」

日時:平成 27 年 8 月 13 日(木) 10:00~13:00

場所:公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構

6 階会議室 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル

参加者:石田達樹、大西弘高、鈴木利哉、奈良信雄、野上康子、高木 康

アドバイザー:青木茂樹、岡崎仁昭、片岡仁美

議題

1. CBT への導入手法の講演

1) 岡崎仁昭先生

題名:「自治医科大学と日本内科学会におけるコンピュータを使用したマルチメディア対応型私権の導入」

医師育成過程の変化

- ・ 医師国家試験:一般問題の減少と PCC-OSCE の導入
- ・ 内科学会資格認定試験:症候から優先順位を考慮しつつ鑑別診断を進める臨床医の思考過程に沿った臨床実地長文問題の導入

医師国家試験への提言

- ・ 診療参加型臨床実習を真面目に行っている医学生に有利な内容に
- ・ 将来的には multi-media adapted CBT 形式の導入
- ・ 医師国家試験が変わらなければ、診療参加型臨床実習(卒前教育)は機能しない

コンピュータを使用したマルチメディア対応型試験の導入

- ・ 内科学会における専門医評価法
臨床実地長文連問形式問題の導入
- ・ コンピュータを使用した試験問題
multi-media adapted CBT 形式問題

- ・ PCC-OSCE

臨床実地長文連問形式

- ・ より実地臨床に即した臨床実地長文連問形式の導入
- ・ 実地臨床に即した新形式:医療面接、医療面接からの鑑別、身体診察、検査所見からの鑑別診断
- ・ 医師国家試験長文問題拡大形式
- ・ multi-media adapted CBT:動画(手のふるえ、MMT)、聴診所見+心エコー
図

自治医科大学での M4 総合判定試験

- ・ Multi-media adapted CBT 形式 + 解答は筆記式
 - ・ 共用試験 CBT と OSCE の相関は悪い年もあるが、multi-media 連問と共用試験 OSCE は強い相関が認められる。
 - ・ Multi-media 連問と PCC-OSCE は相関を認める。
- 今後望まれる医師国家試験
- ・ 実地臨床に即した臨床実地長文連問形式の導入
 - ・ Multi-media adapted CBT 形式の導入
 - ・ PCC-OSCE の医師国家試験への導入
- 新医師国家試験 400 題

2) 青木茂樹先生

題名:「多数の画像の表示-画像のページング-」

CBT 形式での多数の画像の表示

- ・ タイル表示
- ・ Windows の viewer
- ・ Power Point
- ・ DICOM
- ・ クラウド利用の本格的な viewer

画像の特徴と解析法

- ・ 容量は多いようで、今となっては多いとは言えない。

タイル表示

- ・ 現状のソフトですぐに対応可能である。
- ・ 画像が小さいので、解像度が問題である。
- ・ 下図を限った表示(12 枚程度まで)なら可能か。

ページング表示

- ・ タイル表示よりページング表示の方が視点を動かさずに見ることができ、観察が可能である。
- ・ タイル表示より解像度は良好となる。
- ・ PACS での観察(現状の多くの施設で行われている)により近い。
- ・ Windows 附属の基本ソフトで対応可能か。
- ・ 現状のソフトの変更が必要(これ以下の項目に共通する問題)。
- ・ T1 強調像、T2 強調像、FLAIR、造影前後、肺野条件・縦隔条件など多くの画像を見るには適していなし。条件の変更もできない。

DICOM viewer

- ・ 実際的であるがソフト・データ集積に問題があるか。

クラウド利用

- ・ 実際的で IT 関連の進歩を考えると better な方法か。
- ・ データの蓄積、管理を含めたシステムとなり、後の管理は容易なはず。
- ・ ただし、外部との通信が必要であるのが、欠点である。
- ・ 個人情報保護法はクリアーしている？データ登録の際に匿名化が必要。

3) 片岡仁美先生

題名:「米国医師国家試験 CCS の紹介」

CCS: computer-based case simulation

ステップ3: 467 問

内容

- ・ 時系列あるいは別の状態を設定している。
- ・ 救急症例、通常の外来症例などを対象とする。回答時間は症例による。
- ・ 症例に対する対応・処置を順次質問してくるので、それに対して対応に関して解答する。
- ・ フロー的な質問と解答を組み合わせる。
- ・ 依頼の項目は解答者が考えるので、難しい。
- ・ 検査とマネージメントを組み合わせることが大切。症例対応・対処が重要である。
- ・ PBL 形式となっている。
- ・ 処置を変えることはできる。
- ・ 米国では6箇所分散して、試験を行っている。
- ・ Common disease が多い。
- ・ 13 症例には緊急症例も多い。適切な対応・処置が必要である。

2. 台湾(中華民国)の医師国家試験 CBT 試験

別紙参照

3. その他

次回の開催は 11 月の奈良教授、高木の米国施設後に計画する。9 月中旬に予定を調査する。